

育児休業中でも保育所入所を可能にしてほしい

… 村立保育所入所児のお母さんから寄せられました …

働きながら子育てをしている方は、村内にもたくさんいらっしゃいます。保育所は、親の就労、子どもの生活と成長を保障する場として、なくてはならない施設です。国・自治体の責任で、保育所の整備・拡充をすすめることはますます重要になっています。

最近寄せられたお母さんの声に次のようなものがあります。「二人目のこどもを出産し、育児休業に入るとき、原則、1人目のこどもは保育所を退所しなければなりません。村では、『親が育児休業の証明書をつけて村に申請し、村が認めたとき、1年に限って入所継続できる』となっていますが、育児休業は最長3年間認められています。上のこどもの成長を考えれば、引き続き集団生活をさせたいと考えます。保育所が、保育に欠ける子を預かる施設という位置づけのために、こうしたことが発生するとのことですが、こどもの将来を考えていただき、希望すれば育児休業中でも入所できるようにしてほしいと思います」というものでした。

こどもは未来の主人公であり、社会の希望です。一人ひとりのこどもが大切にされ、安心して子育てできる社会にしていくことが急がれています。

子育てしやすい社会環境を整えるために、こうしたお母さんたちとも力をあわせていきたいと思います。



かつては4ヶ所あった村立保育所が、今は3ヶ所に。左は、百塚保育所。

大豊プラント許可取消訴訟

第8回 裁判を傍聴して

7月8日、20数名のみなさんと8回裁判を傍聴しました。裁判は、これまでの原告の主張に対する県側の反論が示されてきていますが、今回は、裁判所が県側に対し、「大豊プラントの資金収支計画には、融資を受ける金融機関名や借入れ利率等、明示されていないが、県は、経理的基礎の判断基準とされる厚生省(当時)基準に照らして、これらをどのように判断したのか釈明するよう」求めました。次回裁判で、県がどのように釈明するのか、聞き逃すことはできません。

第9回 裁判:9月16日(水)午前10時30分から

政治の中身をかえるとき 「国民が主人公」の新しい日本をつくります

日本共産党の総選挙ひとくち政策

子育てを国が応援する

「子どもにかかる費用が大変」「保育園がすくなくすぎ」「犯罪や食の安全が心配」 子育て世代の悩みはつきません。子どもたちは、家族だけでなく社会にとっても大切な宝物です。

子育てママ、パパを応援することは、国の責任です。

- ・国の制度として、こどもの医療費を無料化する。
- ・児童手当を増額、支給年齢を引きあげる。
- ・保育園を大はばにふやす。
- ・ひとり親世帯への支援を拡充する。

